

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践とそのための授業改善を行う。 ○児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育を行う。 ○カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、教育課程の編成に取り組む。	①「より良い授業を目指して」をテーマとして研究を推進し、教育活動に反映させる。 ②児童・生徒一人ひとりのニーズにあわせ、ICT機器を授業で活用し、授業内容を充実させる。	①具体的な視点を整理し、指導案等を作成し、関係者で共有しながら、授業改善を行う。 ②保護者、専門職等と連携し、児童・生徒のニーズに応じた指導・支援及びICT機器の活用に取り組む。	①より良い授業を目指して」授業を計画・実施・評価し、授業改善に繋げることができたか。 ②児童・生徒の指導・支援にあたり、チームとして情報の共有が図られたか。ICT機器を有効に活用できたか。	①「みてみてカード」の取組により、学校全体の授業改善に繋がった。肯定的評価は92%。 ②視線入力装置やタブレットのアプリを用いて、個々に応じた教材を作成した。保護者の肯定的評価は54%。	①学年、学部を超えた気づきや学びを、次年度の授業改善に繋げる。 ②活用は進んでいるが、活用状況の周知も必要。一人一台専用端末の配備に向けさらに研修等を積み活用を促進する。	①このような仕掛けづくりの取組が大事である。授業改善にとって、良い。他の学校にも紹介するとよい。 ②ICT機器の活用について、小中学校からの交流も含め、さらに研修を積み活用してほしい。	①研究のための研究とせず、日ごろの授業の延長を見える化し、授業改善に繋がった。 ②視線入力装置を使った取組について、他校と連携し研究を進めた。ICT機器のさらなる活用に取り組む必要がある。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実に向け、取り組んでいく。 ②一人一台専用端末の配備に向け、活用事例の研修を計画し、実践的な活用を進めていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○きめ細やかな児童・生徒指導・支援の充実を図る。 ○教育活動全体で人権の視점에立った学校づくりに取り組む。	①一人ひとりの障害の状況や保護者のニーズに応じた通学支援体制を構築する。 ②意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築し、人権を尊重した指導や支援を行う。	①医療的ケアを必要とする児童・生徒の福祉車両等による通学支援を確実に実施する。 ②児童・生徒対応を日々確認するために振り返りミーティングを設定する。	①関係事業所等と連携し、医療的ケアを必要とする児童・生徒の通学支援を行うことができたか。 ②情報の共有が図られ、各自が役割を果たし、人権を尊重した指導や支援ができたか。	①スクールバスによる通学支援1件、福祉車両における通学支援7件実施。県下最大の支援ができた。肯定的評価は90%。 ②情報共有の肯定的評価は91%。人権尊重の肯定的評価は94%。	①通学支援のスムーズな実施のために校内体制を整備し、地域資源として、協力事業所との連携をさらに深めていく。 ②引き続き人権を尊重した指導を行い、また、風通しの良い職場を目指す。	①医療的ケア児の通学支援の取組はとても良い。知的部門高等部のスクールバス利用について、将来の自立に向けて取り組むのとよい。 ②人権の観点から、風通しの良い職場づくりを目指してほしい。	①医療的ケア児通学支援では県の先駆的な役割を果たした。知的部門高等部のスクールバス利用の見直しを行った。 ②人権の視점에立ち職員間で、遠慮なく意見の言い合える職場づくりが必要。	①医療的ケア児通学支援について、チーム任せでなく組織的に対応できるような仕組みを構築する。 ②人権意識を高めいじめ・体罰をゆるさない風土の構築を図る。
3	進路指導・支援	○本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援に取り組む。 ○児童・生徒の自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する。	①進路専任、学年進路と連携し、担任が主体的に関わりながら、進路指導の充実を図る。 ②地域と接する機会を増やし、勤労観、就労観の醸成を図る。	①自己選択・自己決定ができる子どもに育てることを目指した進路指導を推進する。 ②地域に出る活動や地域に貢献する活動を計画的に実施する。	①担任が進路担当と連携し主体的に関わり、子どもの自己選択・自己決定を進めることができたか。 ②地域に接する活動を通して、勤労観、就労観の醸成を導き出せたか。	①現場実習を通じて自己理解・本人理解ができるよう家庭や本人とやり取りを行い、自己選択ができるよう支援した。 ②自立と社会参加に向け、地域とつながる活動を実施した。	①小学部・中学部段階から、自己選択・自己決定を意識した授業づくりを行っている。 ②手伝いから始め、役割を持ち、役に立っている喜びが身に付く実践を行う。	①可能性をつぶさず、就労も目指したい。卒業後どう生きていくかが大事である。進路を見据えた学習を積めるようにしてほしい。 ②豊かな依存先を増やすことが自立につながる。	①本人のニーズや適性に応じた、自己選択・自己決定のための継続した指導・支援が必要である。 ②地域とつながる活動が促進された。主体的に取り組めるような支援が必要。	①児童・生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する取組を進める。 ②いつでも・どこでも・誰とでも活動できるような、児童・生徒支援を行う。
4	地域等との協働	○学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進し、共生社会の実現に向け取り組む。	①地域との繋がりを強化し、教育活動や防災活動等を通して共生社会の推進に貢献する。 ②地域のニーズの把握と支援を的確に行い、地域の特別支援教育の専門性を高める。	①防災プロジェクト、共生社会推進チームを中心に地域と繋がる活動を進める。 ②人的交流研究の準備を進めながら、効果的なセンター的機能のあり方を検討する。	①地域や企業と連携し、防災システムを構築するとともに、共生社会の推進に貢献できたか。 ②小学校との人的交流を進めることにより、組織的な体制整備と人材育成の準備ができたか。	①発災時避難訓練では市の防災対策課と協働し、スクールバス乗車時の発災については小学校と協定を結ぶことができた。肯定的評価は85%。 ②地域学校のニーズを理解した支援の肯定的評価は85%。	①スクールバス発災時の一時避難先として、さらに市町の施設等と連携していく。 ②人的交流として、令和6年度は3人を派遣するため、校内体制を整備し、小学校との連携を更に図っていく。	①様々な取組を行っている。さらに地域や学校の行事にお互いに参加し、協力関係が構築できるようにしていきたい。 ②センター的機能を発揮し、地域に支援教育を広めていけるとよい。「助けて」を言えるとよい。	①他校と連携した防災宿泊を行った。スクールバス乗車時の発災に関して全国で初の取組を行った。小学校や施設等と防災協定を結んだ。 ②人的交流では、小学校の文化を知り、課題の共有ができた。	①学校と地域の双方で連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築する。 ②地域の諸学校や関係機関との連携を図り、地域の中核的な役割を担っていく。
5	学校管理 学校運営	○地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。 ○教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①安全に対するルールの見直しを進め、安心な学校づくりを進める。 ②意識改革、業務のスリム化・効率化を図り、働きやすい職場環境を構築する。	①感染状況等を踏まえた安全に関するマニュアル等の見直しを進める。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化を進め、ノー残業デーを徹底する。	①after コロナを見据えたマニュアル等の見直しが見えたか。 ②子どもたちと向き合う時間を確保するとともに、総労働時間を短縮することができたか。	①マニュアル等の見直しを行った。安全で安心な学校づくりについての肯定的評価は93%。 ②会議の効率化、文書の簡素化、業務のスリム化の肯定的評価は82%。	①見直しをしたマニュアルの内容を更に精査し、引き続き検討を重ねる。 ②子どもたちと向き合う時間の確保に向け、教員一人ひとりが主体的に、働き方改革を推進する。	①様々な取組の成果を地域に知ってもらい、防犯をしながら学校を開き、地域とともに防災について考えられるとよい。 ②時間をつくることで教育の質を確保し教育力を上げることが重要である。	①見直しを行い、誰にでもわかるマニュアル・手引きを作成した。引き続き、安全で安心な学校づくりの推進が重要。 ②働き方改革に関する意識改革が進み、総労働時間が減った。	①地域と一体となった安全で安心な学校づくりに取り組む。 ②業務改善を通して学校事務の効率化・簡素化を図り、働きやすい職場づくりを行う。

